

不撓不屈

ふとうぶくつ

有明海を一望する佐賀県内の小高い山中、屋外で体操をすれば野ウサギが顔をのぞかせる。世界の海で活躍する船舶部品を作る東亜工機の本社と工場はそんなのどかな場所にある。

シエア国内7割

製品は船舶用ディーゼルエンジンに使われるシリンドーライナーと呼ばれる筒状部品。内径600ミリ以上の大型部品で同社のシエアは国内7割、海外3割を超える。

東亜工機

①

最近の採用先には建造中けたことがきつかけだったコンテナ船向けで世界最大級のエンジンもあり、シリンドーライナー製造の歴史が始まる。

酒蔵の鋳物工場が躍進

同社の設立は第二次世界大戦中の1944年。

耐摩耗性に信頼

初代社長の愛野時一郎が佐賀県鹿島市にあった酒蔵に鋳物の製造設備を持ち込み、軍需工場を立ち上げた。終戦後は鋳鉄製シリンドーライナーは主に大合金鋼など民生品の製造に転換した。

現在の主力製品であるシリンドーライナーとの出会いは設立2年後。外地から日本人が引き揚げる際に使われた船のエンジンの修理を引き受ける

船用エンジン部品、世界へ



東亜工機が手がける大型シリンドーライナー。内外で高シエアを誇る

爆発力に耐に強い製品の開発に取りえられず事組む。

故につながら、これに対しメーカーのりかねな三井造船や三菱重工業は実際の船のエンジンにシ

光武はシリンドーライナーを使用

界有数のメシ、世界中を回る船で使一カーに成いながら腐食の追跡調査長した理由を實施した。各船の機関を「エンジン長が航海ごとに耐摩耗性を「エンジン」を評価するようになり、

耐久性と、滑らかなピスさんのおかげ」と感謝の知名度が高まった。

代理店倒れ危機

トン運動を維持する精度言葉を繰り返す。50年が求められる。また、製代、シリンドーライナー品全体で均一な強度を保の腐食や摩耗が大きな課題となった。そこで腐食経験した。78年に販売の

8割を任せていた代理店が倒産。同社にとつては

存続を揺るがすほどの額の不良債権を抱え込んだ。72年に入社した光武

も「会社のターニングポイントだった」と振り返る。しかし、この危機を

労使一体となって克服。

造船会社と直接取引できるようにするなど荒波を乗り切った。(敬称略)

- ▽所在地 佐賀県鹿島市大字山浦丁1430の30、0954・63・3
- 236▽社長 光武渉氏
- ▽従業員 290人
- ▽設立 44年(昭19) 6月
- ▽資本金 1億5600万円
- ▽売上高 62億円(16年10月期)
- ▽URL www.toakoki.co.jp/